

徳島県における適応策の取組について

平成30年12月4日

気候変動適応法施行記念国際シンポジウム



徳島県
県民環境部 環境首都課

「徳島県」における気候変動対策の取組

“脱炭素社会元年”気候変動対策の「3本の矢」

(平成28年度)

【1】徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例

- ・愛称の募集(すだちくん未来の地球条例)
- ・平成28年10月制定
- ・平成29年1月1日施行

★環境審議会に新たに「気候変動部会」を設置し、議論

緩和策

(温室効果ガスの排出抑制等)

両輪

適応策

(気候変動の影響に適切に対応)

【2】徳島県地球温暖化対策推進計画

- ・新たな温室効果ガス削減目標の追加
- ・平成28年12月に設定

【3】徳島県気候変動適応戦略

- ・平成28年10月策定

徳島県気候変動適応戦略(1)

～ 気候変動を迎える、強靭でしなやかなとくしまづくり ～

気候変動の状況とその影響(徳島)

- 年平均気温は100年当たり1.4度上昇
年降水量は変動幅が拡大
- 浸水被害や深刻な渇水被害
自然生態系や食料生産などに影響

「適応策」の必要性

- 将来、最も厳しい削減シナリオをとったとしても**気候変動のリスクは避けられない。**
- 気候変動の影響は、**地域特性により異なる。**



戦略の位置付け

- 新たな条例に基づく、
適応策に関する基本方針

戦略の計画期間

- **平成28年度から32年度までの5年間**

戦略の方向性

- **地域特性に応じたリスクを低減し、**
安全安心の社会づくり
→ 地域における脆弱性を踏まえ、現象のソフト・ハード面からの対応力を強化
- **影響のプラス面を効果的に活用し、**
地方創生につながる地域づくり
→ 農林水産物の新たなブランド創出
新たな地域資源の発掘

徳島県気候変動適応戦略(2)

分野別の影響及び基本施策(例)

1 県土保全

地域特性 台風の常襲地帯、急峻な地形や脆弱な地質

現況

河川・沿岸

- 大雨日数が増加傾向

山地・森林・農村

- 降水量に比例し、山地災害が増加

インフラ等

- 山腹崩壊による線路流出、停電等発生
- 高濁度原水など水道事業への影響

将来予測

河川・沿岸

- 水害が頻発・激甚化
- 海面上昇に伴う、高潮・高波の増加等による浸水被害のリスクの増大

山地・森林・農村

- 集中的な崩壊、がけ崩れ、土石流の頻発
- 中山間地域での風倒木災害の増大

インフラ等

- 鉄道の運行等の交通面、電気等ライフラインへの影響
- 気温上昇や渇水増加による水資源の枯渇、水質悪化

新条例を制定し、
強靭な県土づくりへ加速



(26年8月豪雨(那賀町))

今後の方向性と取組み

自然災害を迎える“県土強靭化”

- 「徳島県治水及び利水等流域における水管理条例」を制定し、事前防災・減災へ積極展開
- 河川・沿岸・砂防・治山施設などの整備を推進し、被害を最小限化
- 県民の防災意識の向上

地域資源を活かした防災・減災体制の強化

- 農山漁村の多面的機能を活用するため、農地や森林等の保全活動の推進
- 生態系を活用した防災・減災のあり方について、各部局が密接に連携し調査研究を実施

主な指標

重点河川の整備推進
平成30年度までに78%

生命線道路の強化率
平成30年度までに80%

④

徳島県気候変動適応戦略(3)

分野別の影響及び基本施策(例)

6 農林水産(食料)

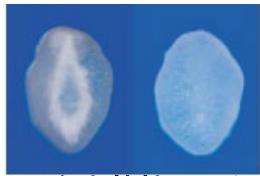
地域特性

自然環境を活かした多種多様な農林水産物の生産、関西市場での高いシェア率

現況

農業

- ・水稻、果樹の品質低下
- ・乳用牛の乳量等低下
- ・病害虫の分布域拡大
- ・農業用施設等の被害発生
- ・ハウス栽培における暖房コスト低減



(白未熟粒による
品質低下)

水産業

- ・漁獲量の変化(北方系魚種の減少)
- ・南方系魚介類の漁獲量が増加傾向
- ・養殖ノリ、ワカメの収穫量減少
- ・高波被害、海岸侵食等のリスク増大

今後の方向性と取組み

安定的な生産・供給体制の確立

- 高温対応の栽培管理・飼養管理技術開発
- 新たな病害虫防除体系の確立
- 魚介類の生態等の変動予測

漁港・農業基盤の安全確保

- 海岸保全施設の整備
- 農業用排水施設及びため池の整備

将来予測

農業

- ・コメ収量の減収、品質低下
- ・果樹の栽培適地北上、生育障害発生
- ・家畜の成長への影響
- ・病害虫の変化や被害の拡大
- ・農地、農業用施設等の被害のリスク増大
- ・高温化による飼料用作物の成長の早期化



安定的な生産体制の確立
と新たなブランド創出

水産業

- ・高水温を原因とする漁獲量の低下
- ・養殖業における高水温化によるへい死率増加
- ・海面水位の上昇による漁港機能・施設への影響
- ・ブリ養殖における秋冬期の成長促進、避寒に係る省力化

(成長早期化が期待される
飼料用トウモロコシ)

主な指標

「徳島発・次世代技術」創造数

平成30年度までに65件

新品種の開発数

平成30年度までに15件

新たとくしまブランドの創出

- 高温耐性品種「あきさかり」のブランド化
- 値値の高い南方系果樹の導入実証
- 徳島大学等と連携した新品種や新技術開発



(高温耐性品種あきさかり) 5

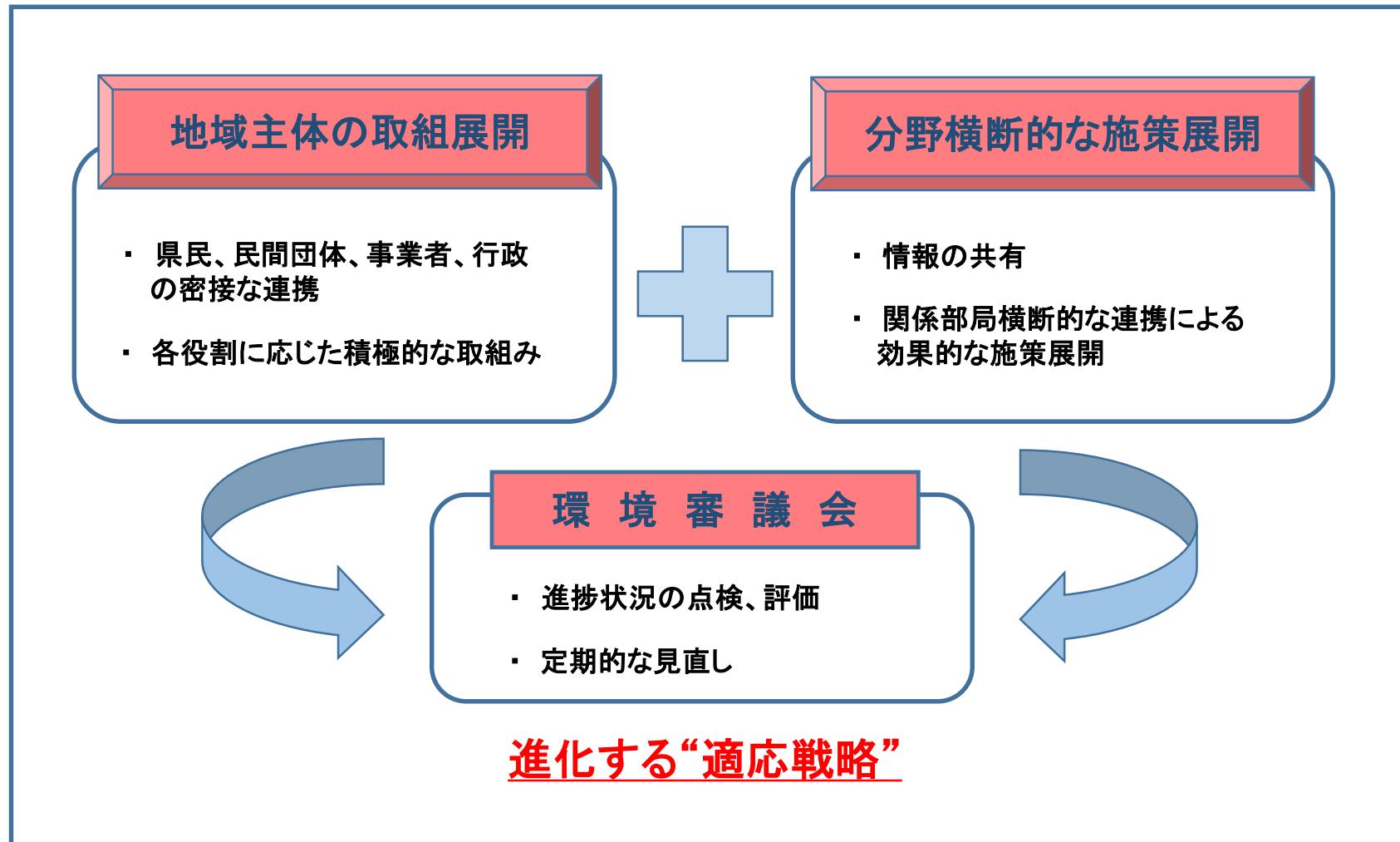
徳島県気候変動適応戦略(4)

戦略の取組みのイメージ



徳島県気候変動適応戦略(5)

戦略の取組みのイメージ



ご清聴いただき、ありがとうございました。

